豊中市公共施設等総合管理計画　参考資料

夢もっと とよなか
市制施行 80 周年

豊中市　次世代につなぐ 公共施設フォーラムの記録

日時：平成 29 年（2017 年）1 月 20 日（金）　18：30 ～ 20：00
会場：豊中市立文化芸術センター　小ホール

プログラム：開会あいさつ／豊中市長
豊中市の公共施設の現状・公共施設等総合管理計画（素案）について
パネルディスカッション「これからの公共施設とは」
来 場 者 数：130 名

開会にあたって／豊中市長 淺利敬一郎

人口減少時代がすでに始まっています。全国各地で公共施設の今後のあり方が議論され、豊中市においても老朽化してきている公共施設、また、水道や下水道などの様々なインフラ施設を、どのように維持しながら市民の皆様にサービスを提供していくかということが重要な課題となっています。

本市においては、平成 23 年度に市有施設有効活用計画を策定し、行財政改革の一環として建物施設の有効活用の取り組みを進め、平成 28 年度には豊中らしいまちづくりを支える人・組織・財政等の行財政運営基盤の強化を図るため、中期行財政運営方針及び公共施設等総合管理計画を策定します。本市の課題はどこにあるかということを明確にし、さらに市民の皆様と共に議論をしながら、今後の公共施設のあり方の検討、インフラの充実、補修等に取り組む必要があります。

財政上、現状のまま全ての建物を維持していくことは非常に難しいため、ベースとしては施設を減らしていかなければならないわけですが、市民サービスを低下させずに施設再編を進めていくためには、民間の力を借りる、運営について指定管理を含めた取り組みを進めるなど、様々な力を結集していくことが大切と考えております。本日のフォーラムが、市民の皆様と共にこれからの公共施設を考える機会になればと思います。

豊中市の公共施設の現状
豊中市公共施設等総合管理計画（素案）について

計画策定の背景と目的

・公共施設の老朽化、少子高齢化の進行。今後の社会保障関係経費の増大が見込まれる。
・市民が公共施設に対して求めるサービスが大きく変化してきている。
・豊中市の公共施設の現状や課題を明らかにし、今後の管理運営等の方向性を定めることが目的。

豊中市の公共施設の現状

・昭和 40 年代に多くの公共施設が建設されており道路、上下水道等のインフラ施設についても同じことが言える。総じて老朽化が進んでいる。

今後 40 年間の建替え・改修経費の試算

・建物施設を今後 40 年間、現状の規模のまま維持し続けた場合に必要となる経費を試算した。年平均 115 億円の見込み。一方で、直近 5 年間にかけた同費用の実績は年平均 77 億円で、大きな差がある。また、更新時期の集中が見込まれる。

市民アンケートから見えてきたこと

・これからの公共施設の「量」について、「積極的に減らす」「市民ニーズや財政状況に見合った量に減らす」という回答割合が 8 割以上。
・「利用者が少ない」、「維持管理・運営に費用がかかりすぎている」、「同様のサービスを行う公共施設が近くにある」、「特定の個人・団体に利用されている」という状況の公共施設を減らせばよいという回答が多数。
・「サービス内容の見直し」、「民間事業者との連携」、「複合化・多機能化」を進めていくべきという回答が多数。
・「災害にも対応できるよう、耐震化・老朽化対策をしっかりと行ってほしい」、「限られた財源を有効に活用するために、優先順位をつけて確実に取り組んでほしい」、「初めて利用する人でも気軽に利用できる施設にしてほしい」等の意見。

3 つの大きな課題

・公共施設等の老朽化対策
・財政負担の軽減と平準化
・限られた資源の効果的な活用

施設の安全性能の維持・向上

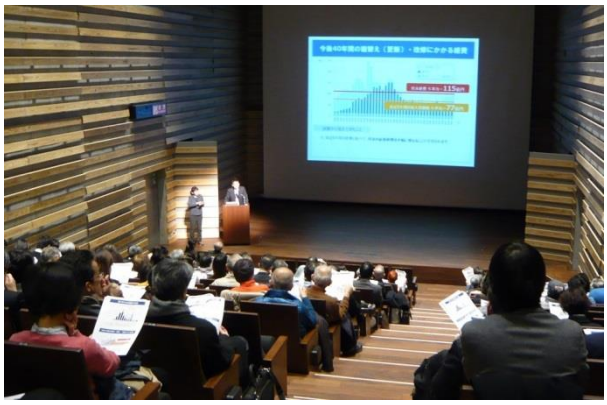
・市民の安心・安全の確保が第一。
・予防保全が重要。劣化状況をあらかじめ点検して把握し、計画的な補修や改修を行う。
・耐震化などによる災害への対応は、それぞれの施設・インフラで策定している耐震計画や長寿命化計画に基づき、着実に実施していく。

施設総量フレームの設定・財政負担の平準化

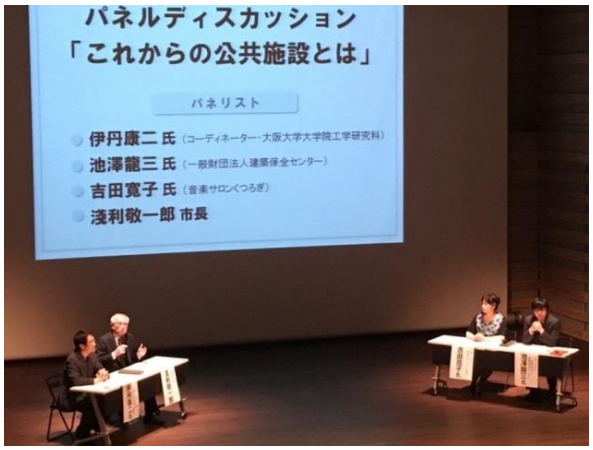
・建物施設の延床面積について、計画期間 24 年間で平成 26 年度比 80%に縮小するという施設総量フレームを設定。
・単に施設の総量を減らすだけでは、市民サービスの低下を招く恐れがある。
・施設の複合化により運営費を抑えるとともに、施設同士の相乗効果を促して、便利でより内容の充実した施設となるように検討を進めていく。

市民に必要とされる公共施設とは？

・限られた資源の中で、いかに市民に必要とされる公共施設にしていくかということ。
・行政と民間でアイデア・ノウハウを出し合うことで、これまでになかったようなサービスを提供することが可能であると考えている。
・財政負担を軽くしつつ、便利で使い勝手のよい公共施設を次の世代へ引き継いでいくため、公共施設マネジメントの取り組みを推進していく。



パネルディスカッション
これからの公共施設とは



公共施設の現状について考えること

池澤氏

・昭和 40 年代以降、父親、母親の世代が一生懸命働いて自分の居場所、小学校などの公共施設を作ってくれた。それを引き継いだ私達、あるいは今後引き継ぐであろう子ども達にとって、公共施設の老朽化は非常に深刻な問題。

・笹子トンネルの事故等、起きるはずがないと思っていたような公共施設等の事故が起きている。鉄筋コンクリート造の施設は、メンテナンスをしなければ、利用者にとって危険な物になってしまう場合もある。

・学校で高さ 30 ㎝、重さ 20 ㎏くらいのコンクリートの塊が 4 階の屋上から落ちるという事例があった。たまたま夜間に落ちたため子どもに当たるというようなことにはならなかったが、昼間に落ちていたらと考えると恐ろしい。今、改めて「安全・安心」を考え直す必要がある。安全がなければ安心はない。

落下した学校外壁（池澤氏提供資料）

建築保全センター
池澤龍三 次長

民間ゼネコン、千葉県佐倉市職員などを経て平成 25 年より現職。早稲田大学招聘研究員なども務める。
全国の自治体をとびまわり、経験・実績をふまえた講演やセミナーを精力的に行う。
公共施設マネジメントに関する寄稿など多数。

・今回、この計画により安全をもう一度確保していくためのマネジメントを始めたと捉えることができるのではないか。

・父親、母親の世代の「最適」と、これからの世代の「最適」は、少し違うかもしれない。これまでは、お金や人が増えている中で、例えばもっと望ましい教育環境はこうあるべきだというような議論をしてきたが、少子高齢化が進むこれからの時代は、限られた資源の中で新しい価値を作っていくことが必要になる。個別の「最適」ではなく、全体のバランスの中でどのような「最適」を目指していくのかということを考える必要がある。

伊丹氏

・公共サービスに積極的な自治体ほど、社会の変化や市民のニーズに合わせてサービスや事業を拡大し、結果的にサービスや事業の重複が起こる。豊中市はそのようなタイプの自治体であると感じている。

大阪大学
伊丹康二 助教

コーディネーター

ニュータウンの施設配置計画や公共施設の再編、地域コミュニティ施設の建築計画などを専門とする。
とよなか都市創造研究所研究員を経て、大阪大学大学院工学研究科助教。平成 28 年 5 月から豊中市市有施設有効活用委員会委員長を務める。

吉田氏

・人が繋がる空間づくりをしたいという主旨で音楽サロンくつろぎの運営を行っている。音楽を

基本にして、人が地域で孤立したり孤独になったりすることを防ぎたいと考えている。

・公共施設でも音楽イベントを行うことがある。自分自身は市民の中でも公共施設を利用しているほうであると思うが、それでもやはり同じ団体ばかりが施設を利用しているような印象を受けることがある。

・活動の場として使いたい人はたくさんいるのに、どう使えばいいのか分からないというケースが多いのではないか。

・公共施設には、相談に訪れる人も多い。誰もが気軽に立ち寄れるような、開けたイメージを持たせていくことが必要ではないか。

音楽サロンくつろぎ
吉田寛子 代表

自身の音楽経験を生かし、市内の公共施設などで子どもから高齢者までを対象にしたコンサートや音楽イベントを展開。
平成27年6月から豊中市市有施設有効活用委員会の市民委員を務め、利用者の立場にたった提言を行う。

伊丹氏

・市民アンケートでも、公共施設が使いにくい、クローズな施設が多いという意見が目立った。公共施設は市民が共有しているものであって、オープンであって欲しいということだろう。

淺利市長

・千里ニュータウンでは、一時期人口がかなり減少したが、民間の力で施設が建て替わり、ポテンシャルを生かした新しいまちに生まれ変わりつつある。人が集まり、子どもが増えている。

・公共施設においても、市民の生活スタイルの変化や市民ニーズの変化に対応していく必要がある。運営上の課題に対しては、行政の役割に加えて、民間事業者やＮＰＯの力を借りながら、市民サービスを高める努力をしなければならないと考えている。

・平成18年、豊中で1時間に110ミリを超える豪雨があった。そのような豪雨への対策や、上下水道や学校施設の耐震化など、災害対策はしっかりと進めていく必要があると考えている。

豊中市
淺利敬一郎 市長

昭和44年、保健体育の教員として寝屋川市立第一中学校に赴任。
豊中市教育委員会教育長を経て、平成18年5月から現職。
基本理念は「子どもたちの未来が輝くまちづくり」。
趣味は囲碁と音楽鑑賞。

伊丹氏

・行政の使命が市民の生命を守ることだとすれば、公共施設の個別の耐震化とともに、民間の力、民間施設、サービスを活用し、どのように市民の命を守るか、その中での公共施設の役割を考えることも重要である。

・多くの豊中市の公共施設は40～50年前に建てられた。当時は、公共が社会をけん引していくという時代。例えば公的な住宅、社会教育施設などは社会に求められるサービスであるとして行政が建設し、サービスを展開してきた。粗い言い方になるが、今は民間が社会をけん引し、民間にできないことを公共が担うという時代である。公共施設も同じように考える必要があるのではないか。

・一方で建物の寿命は50～60年、100年もつという話もある。建物の寿命のスパンと、公共が行わなければならないサービスや市民ニーズが移り変わるスパンはあまりにも違う。「建物とサービスが対応しており、建物が無くなるということはサービスが無くなる」と考えてしまいがちであるが、建物とサービスとを切り分けて考える必要がある。

限られた財源の中でより良いサービスを

淺利市長

・老朽化や市民ニーズの変化に対応して、必要な施設については更新するなど、快適性や利便性を高めるため変化をしていかなければならない。

・老朽化している施設については、複数の施設を更新の際に 1 箇所に集約することで、光熱水費や人件費などのコスト削減につながる。

・民間と行政の分担を工夫し、全体としてサービスの質を落とさないような取り組みを進めていくことが求められている。

・改革を進めていく上では市民の皆様との議論が不可欠であると考えている。

伊丹氏

・床面積が 2 割減ればサービスが 2 割減るかといえばそうではない。やり方次第で、サービス水準を落とさない、または新しいサービスを提供できる可能性は充分にある。

池澤氏

・ハコモノ＝サービスという感覚について。ハコモノが増えていくと行政サービスが増えていく、ハコモノが減ればサービスが減るという一次方程式のような発想では、あれもこれも欲しいということになってしまう。

・私が体験した事例で、鉄筋コンクリート造 3 階建ての消防署を建替えるにあたっての検討の経緯を紹介する。3 階部分の機能が移転して 2 階部分までしか利用されていなかった。従来の考え方ではスクラップ＆ビルドという発想になるが、実際には減築という手法を採用した。

消防署の減築の事例（池澤氏提供資料）

・使わなくなった部分を残しておくとかえってお金がかかるということもある。機能として不要になった部分は減築して、建物を軽くすれば耐震性を持たせることもできる。前の世代が作ってくれた資産を有効活用し、次の世代に引き継ぐということ。

・リースという選択肢もある。豊中市が必ずしも不動産を持つ必要はなく、一時的に利用するのであればリースで賄うことも出来る。

・コスト削減という視点では、例えば軟弱地盤層に鉄筋コンクリート造の建物を建てる場合は地中に何十本と杭を打つが、そのような建物は除却する場合に大変な費用がかかる。施設の設置目的によっては木造や鉄骨造を選択するなど、中身のサービスを提供するために最も望ましい形や構造については、しっかりと検討するべき。

吉田氏

・減築の話があったが、実際公共施設の中に入ってみると使われていない部屋や施設自体に人の気配が感じられない所も多くあるように思う。

・複合化や集約の際には、市民の立場から交通アクセスをよく検討してほしい。駅から近い、駐車場がある、バス停が近くにあるなど。

・今は、建物自体が古く、バリアフリー化されていない施設も多いように感じる。高齢者や、ベ

ビーカーを押した人、車いすを利用している人の立場からすると、階段や少しの段差がとても大変で、それが億劫で施設に行くのをやめようと考える人もいるはず。

・拠点にしている音楽サロンくつろぎは、何年も空き家になっていたところを賃借しているが、多くの人が出入りすることにより建物が生きる、ということを実感している。

・公共施設も、色々な人が出入りし、集うようになることで、施設自体の魅力が増し、さらに人を呼びこむことができるのではと考える。

空き家を活用した音楽サロンくつろぎ（吉田氏提供資料）

伊丹氏

・各施設で提供するサービスを検討することはもちろん大切だが、例えば図書館であれば隣に広いスーパーや公園があるかどうかで利用率は変わるだろう。公共施設を複合化、集約化するだけでなく、周囲にどのような民間施設があるのか、地域性も考慮するべきである。市民ニーズを全て公共施設で賄うといった考え方から脱却することが必要である。

市民に必要とされる公共施設とは

吉田氏

・コンビニなど、ちょっとトイレを利用するときでも気軽に入りやすい。入ったついでに買い物をする。そんな感覚で、公共施設が使えるようになればよいのでは。何かの目的のためだけに行くということではなく、そこに行くついでにあれもこれも用事が出来るような場、オープンな空間、とくに何も用事がなくてもふらっと立ち寄れる空間であることが必要ではないか。

伊丹氏

・従来の公共施設は、例えば図書館であれば図書館の機能を最大限に発揮できるよう設計されていた。しかし、これからの公共施設は、広く開くことも必要ではないか。民間施設においても、例えばホテルのロビーやラウンジなど、誰でも待ち合わせに使ったり仕事の間の時間調整に使ったりできるような空間がある。最近は、ショッピングモールやコンビニなどの商業施設でもイートインスペースなど自由に使える休憩スペースが提供されるようになってきている。従来であれば収益性が低いと考えられてきたスペースを、民間施設は集客のために必要だという発想になってきている。公共施設はこのような点を見習ってもよいのではないか。

淺利市長

・職員の側からすると、管理する施設を出来るだけきれいに、長持ちさせたいという意識がある。条例や規則をもとに管理することに重点を置きがちになる。

・設置目的に沿ってきっちり管理するほうが良い施設と、柔軟な使い方を認めるほうがいい施設とがある。行政、職員が担うべき部分と、民間、地域住民、ＮＰＯなどが担うべき部分との分担を工夫する必要がある。

・千里コラボには、市民が運営しているカフェがある。協働で進めていくことが認められる時代。多くの市民が充分納得をして施設を利用できる、もしくは協働で運営するのだというような意識を持っていただくことが、これからの公共施設を考える上では非常に重要なことと考える。

伊丹氏

・他の自治体では地域集会所を市民に譲渡している例もある。市民のニーズに対応して行政が運営するという方法にとらわれず、市民に運営を委ねるという選択肢もある。

池澤氏

・安全安心を守るという公共の立場からは、経営というよりも管理することに集中してしまう傾向があるのは無理のないことと言える。

・学校のプールの事例。学校 34 校全てにプールを整備していたが、維持管理コストが高い一方で稼働期間が短いという課題があった。学校や保護者との協議を重ね、最終的には学校でプールを持つことをやめ、水泳の授業は民間のスイミングスクールと連携して行うことになった。維持管理コストは下がり、生徒はプロに水泳を教わることが出来る。親がプールを参観することも出来るようになった。

民間プール活用の事例（池澤氏提供資料）

・例えば、コンビニのイートインスペースを発展させた「コンビニ図書館」「コンビニ学童保育所」「コンビニサロン」といったようなことも考えられるのではないか。図書館がコンビニと連携して、利用者が予約した本をコンビニで受け取ることが出来る自治体もある。

・発想の転換として、公のもの全てを行政でやらなければならないという考え方から脱却していかないといけないのではないか。

・学校の体育館を建替える際に、ステージのバリアフリー化について検討したことがある。通常、体育館のステージは、下にパイプ椅子をたくさん収納するために 1m高く作られている。今後、少子化が進んでいったときに収納するパイプ椅子の数が減るとしたら、ステージの高さを下げることも出来るのではないか、という検討を経て、体育館のステージに常設のスロープを設置することが実現した。

・このような事例から考えられることは、公共が作る施設だとしても、使い勝手がよくなるように、市民も一緒になって提案をしていく、一緒に作り上げていくことが大切ということ。

・行政が不得意とする分野があるとすれば、民間が一緒になって補っていくという官と民との連携、さらには市民との連携を強固に進めていくことが必要であると考える。

伊丹氏

・近隣市でもコンビニのイートインスペースを実質、公共施設（市民公益活動センター）のサテライトとしている事例がある。一般的な公民館であれば、利用時間や飲食についての制約があるが、そこは夜 11 時まで利用可能で、利用者は 1 階で飲み物や食べ物を買い、自由に飲食も出来る。利用者にとっては公共施設よりも使い勝手が良い面も多い。

・現在の民間施設の良いところを参考にしながら、公共施設ならではの役割を果たすという役割分担が必要ではないか。

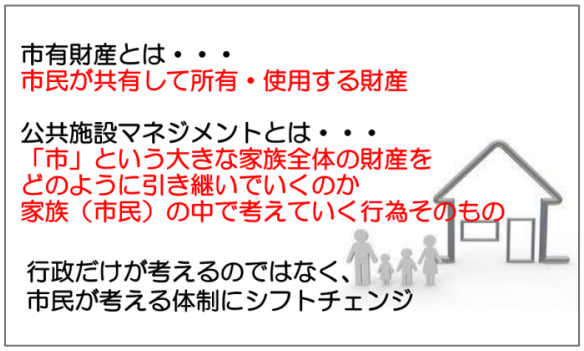
「こんな施設があればいいのに」を実現させるために、市民が出来ることは

池澤氏

・豊中市をひとつの家、公共施設を家の財産と捉えると、家にどれだけの資産や負債があるのかということ、これから年 115 億円かかるというのに 77 億円しか投資できないという現実について、家族みんなが理解して、これからどうしていくのかを相談する、一緒に考えていく段階に入っていると言える。

・例えば施設のことで住民説明会があるという場合には、どうしても行政対住民という構図になりがちである。住民の中にもいろいろな考え方を持った人がいて、それぞれの意見が違うのは当たり前。行政の話を相対して聞くというだけでなく、いろいろな考え方を持った住民同士が自分たちの資産についてお互いに意見を言い合うことで、行政とコミュニケーションをとっていく。そのような体制を作っていく必要があるのではないか。

・これからは、自分たちがもっと使いやすく、もっと合理的な形とはどのようなものかを考え、行政に対して提案していくことが望ましいと考える。



（池澤氏提供資料）

公共施設を次世代につなぐために

池澤氏

・公共施設の再編といったような作業は、将来に向けた新しいアイデアを生み出すためにも、ネガティブではなく、明るくポジティブに進めていくことが大切。

吉田氏

・利用者の意見や働きかけが、施設の運営に生かされて、施設が利用しやすく変わっていけば、公共施設を市民が、私たちが支えているという意識に変わっていくと思う。

・公共施設の中で、子どもや学生から高齢者まで、幅広い世代が生き生きと交流している形が目に見えてくるようになることを期待する。

淺利市長

・豊中の特徴は市民力、地域力と思っている。市民の皆様と共に進めていきたいと考えている。

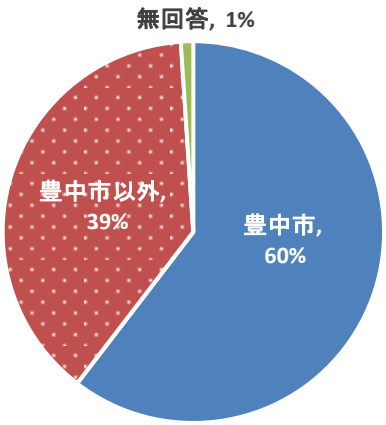
伊丹氏

・公共施設の再編は必ずしも暗い話ではない。単に施設を減らすのではなく、この文化芸術センターのように、老朽化により更新する施設については、次の世代のモデルになっていくような施設として、更新することも欠かせない。

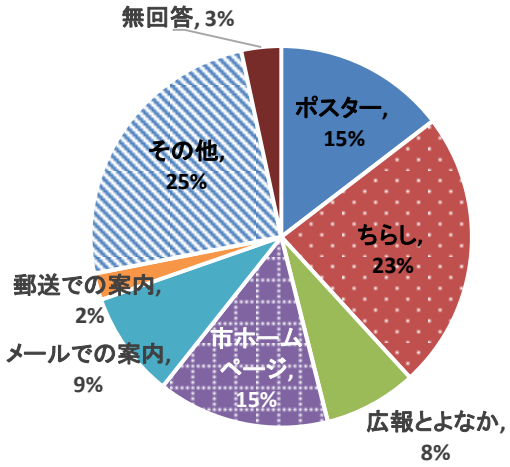
・本日のフォーラムを通じて、複合化や多機能化、市民や民間企業の力を生かすなど、これからの公共施設の再編を見据えた様々なヒントが得られたと思う。このような考え方で再編を進めていけば、公共施設に対する新しい見方、次世代へつなぐ道筋が見えてくるのではないか。

来場者アンケート／回答数：96 件

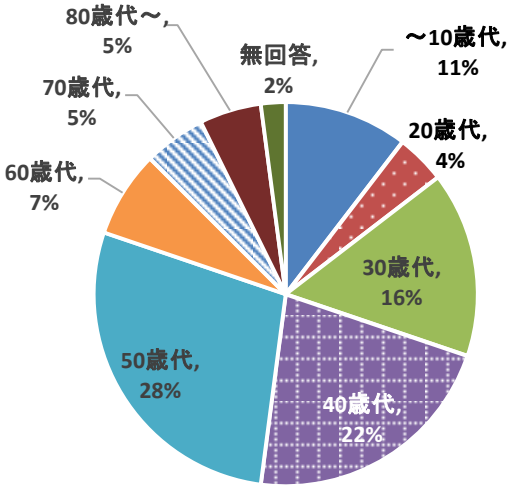
問 1. 住まい



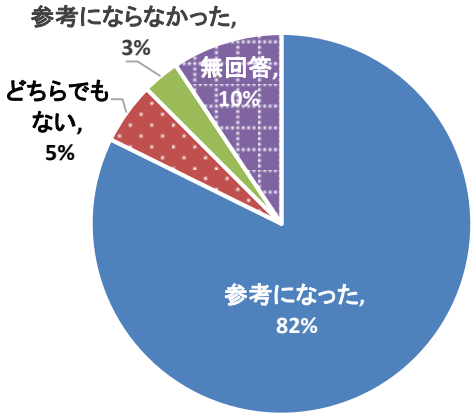
問 3. 今回のフォーラムの情報入手方法



問 2. 年齢



問 4. 今後公共施設に関する問題を考える上で参考になったか



ご意見・ご感想　（※重複する内容のご意見は集約する等、編集しています。）

●これからの公共施設・公共施設マネジメントについて

・人口減による公共施設の利用減、次世代への負担増、維持費の負担増は避けられない。
・安全安心を守ること、使い方を考える事、経営面等課題を明確にして考える必要がある。
・気軽にインターネット予約できる公共施設が増えたらいいと思う。
・大きな建物、施設が多すぎる。
・くつろぎスペースがあるなど、入りやすい公共施設を作っていって欲しい。
・スーパーと図書館など、色々と複合的な公共施設が望ましい。
・古いから壊すだけでない前向きな可能性を感じた。利用者側の立場で出来る事も考える機会となった。
・市民だけでなく外部・外客とも交流できる施設に発展すればさらにすばらしい施設になると思う。
・今の公共施設は設置目的の基準が厳しすぎる。
・隣接市と連携して施設の統廃合を進めるべき。
・デザインが先行してメンテナンスにコストがかかるものも多かったと思う。災害時等の復旧の難しさも課題。施設機能を最大限に生かす設計をしてほしい。
・より利用率が高まる宣伝活動が大切。
・利用者を増やすことも検討すべきことなのかが疑問。民間なら利益を出す必要があると思うが、公共でも考える観点であることがよくわからない。

●パネリストの発言について

・施設は管理に重きを置くよりロケーションも含めて活用していくという視点が参考になった。
・市長自ら施設の使用に対して柔軟な考えをもっていることを知れて良かった。
・「公共施設マネジメントとは大きな家族全体の財産をどう引き継ぎ、家族（市民）の中で考えていく行為そのもの」という視点を持つことの重要性を感じた。
・今後の公共施設のあり方を考えるときに市役所対住民といった構図ではなく市民対市民で議論する必要があるといった話はなるほどと感じた。
・公共は管理を第一に考えるように思う。コンビニ公民館は良い事。
・発想を転換し、公と民との連携について柔軟に考えることが必要。
・減改築のポイントにその後のメンテナンスのしやすさは重要な事と思う。
・市民が行政の公共施設運営や利活用施策に関わったり、提案できたりすることで将来の市の公共施設の姿が変わる可能性が生まれたり、市民の使い勝手にふさわしい施設に変化させることができるという事がよくわかった。
・所有ではなくリース、管理運営に市民力を生かすという話が印象に残った。

●市民としてどのように課題と向き合うべきか

・小さな集まりにも積極的にすすんで参加して意見を述べたい。
・本当に意見が言えて、素敵な公共施設になればよいと思う。
・市民として財産を次世代へ上手く渡したい。
・市民が支える公共施設という意識が大切。
・“使いつくす”をキーワードに考えていくともっと自由に肩の力を抜いてアイデアが浮かぶと思う。
・がまんするのではなく、かしこく使って次世代に上手に残していきたい。

豊中市 資産活用部 施設活用課
平成 29 年（2017 年）3 月 作成